

おばあちゃんのハミガッキー

チナは、ひとりでねるれんしゅうをしています。

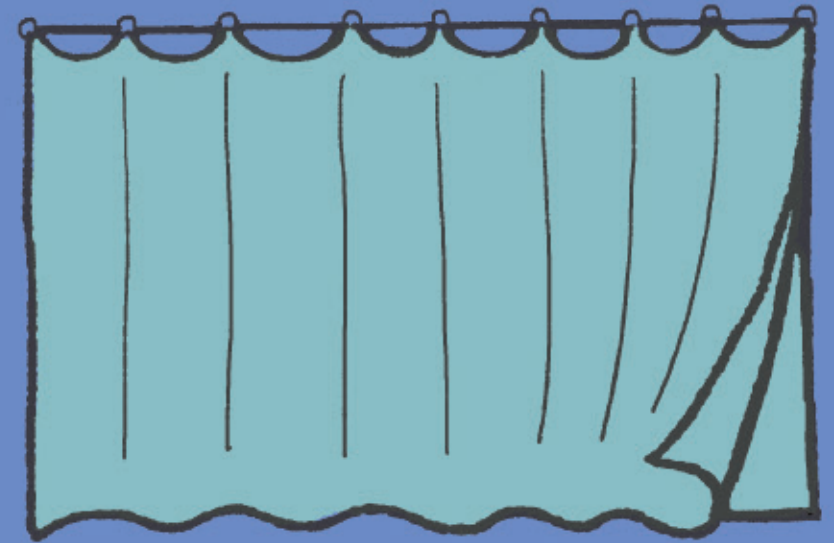


ぶん・楠 ^{くすのき あきこ} 章子 え・オカダ ケイコ

監修：国立モンゴル医学・科学大学

歯学部 客員教授 岡崎 好秀

(となりに、だれもないの、さみしいなあ)
よこをむいたり、うえをむいたり。
ねがえりをなんどうっても、ねむれません。



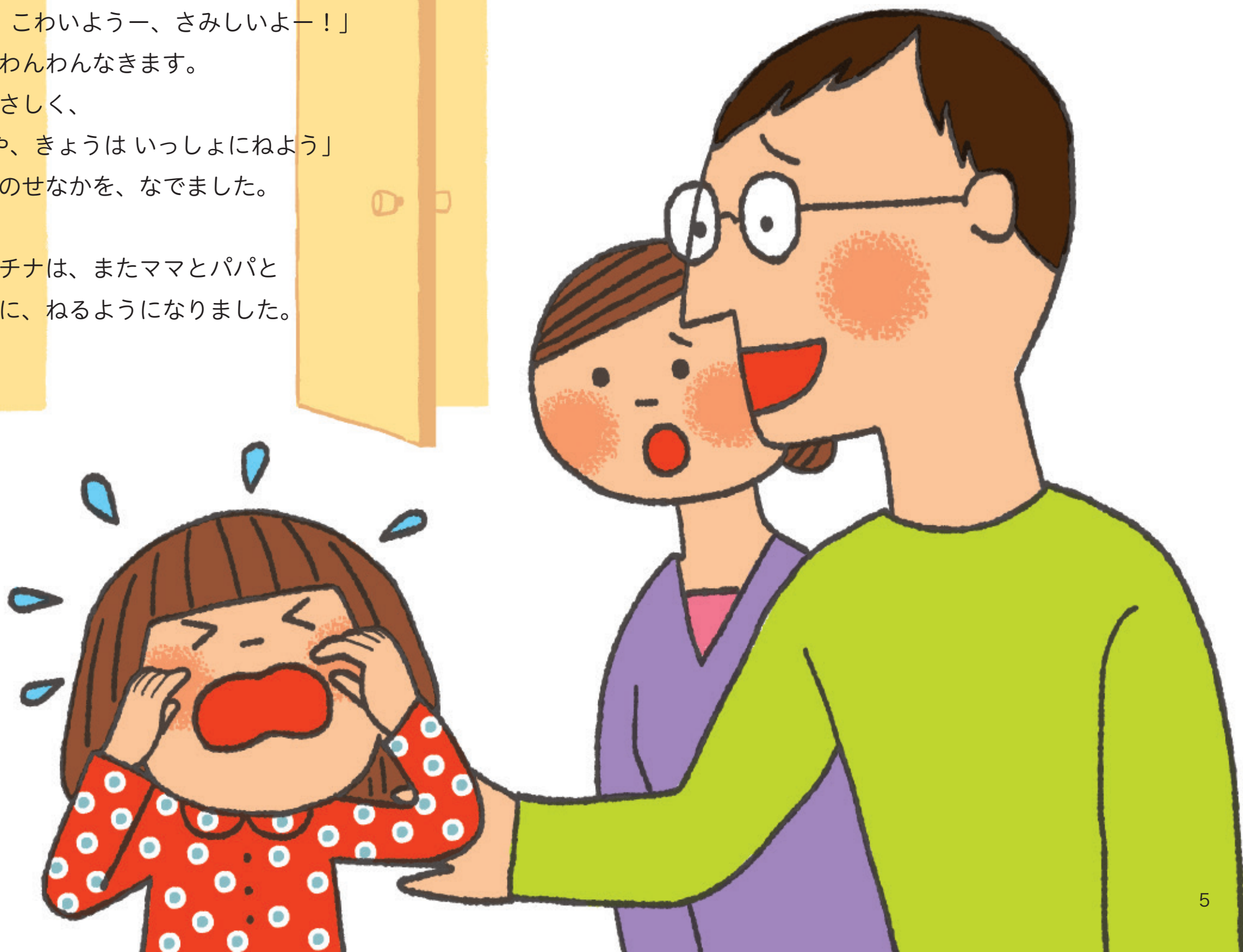
くらいおへやに、ひとりきり。
(いま、カーテンがゆれたかも?!)

おばけ！

チナは、ベッドをとびだしました。

「ママー、こわいようー、さみしいよー！」
チナは、わんわんなきます。
パパはやさしく、
「おやおや、きょうはいっしょにねよう」
と、チナのせなかを、なでました。

それからチナは、またママとパパと
いっしょに、ねるようになりました。



「まだ、はやかったのかしらねえ」
ママは、おばあちゃんに、でんわではなしました。
「だいじょうぶ、いいものをおくってあげるよ」
おばあちゃんは、ふっふっふとわらいました。



さて、すぐに、おばあちゃんから、
おお大きなはこがおくられてきました。
「なあに、なあに？」
チナは、わくわく。

まあ、かわいい。

千十ちゃんへ
このこのなまえは、
ハミガッキー。
なかがよくしてね。
おばあちゃんより

ハミガッキーを、すっかりきにいったチナ。
ベッドにねかせて、いっしょにねむります。
となりにハミガッキーがいれば、さみしくないよ。
こわくないよ。



「チーナちゃん」

こえがしたので、チナはめをさしました。

「ハミガッキー、どうしたの？」

ねむいめをこすり、たずねると、

ハミガッキーはいいました。

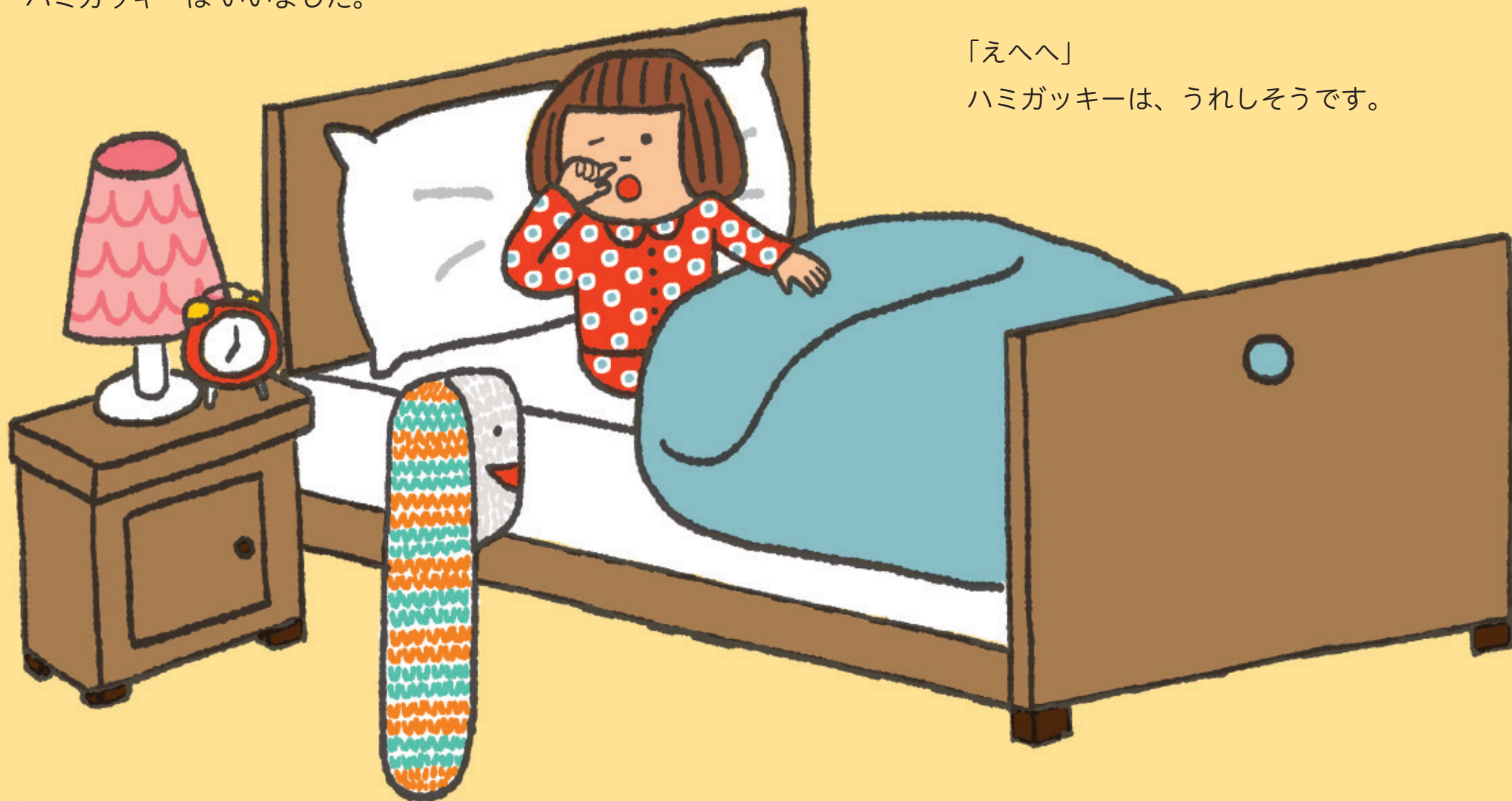
「チナちゃん、ひとりでねられたね。よかった！」

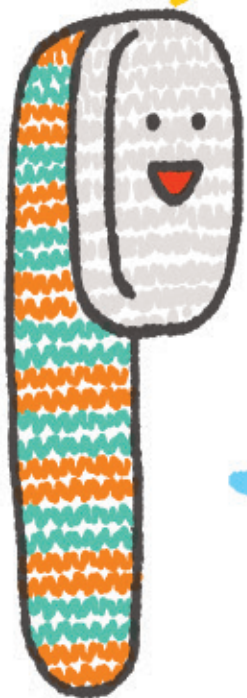
「ひとりじゃないよ、ハミガッキーがいっしょだもん。

ありがとう！」

「えへへ」

ハミガッキーは、うれしそうです。





「ぼく、おばあちゃんから、ふたつのことを、
たのまれてきたんだ」

「ふたつ？」

チナは、かんがえました。

ひとつは、ひとりでねられるように。

ふたつめは？

「チナちゃんが、けんこうにすごせるように、
みまもるためだよ」

「けんこう？」

「^は歯みがき、ていねいに、ちゃんとしてる？」

たずねられて、チナは、どきっとしました。



よる、ママには「^は歯みがきしたよ」といっても、
ほんとうは、めんどくさくて、
さぼったことがあります。

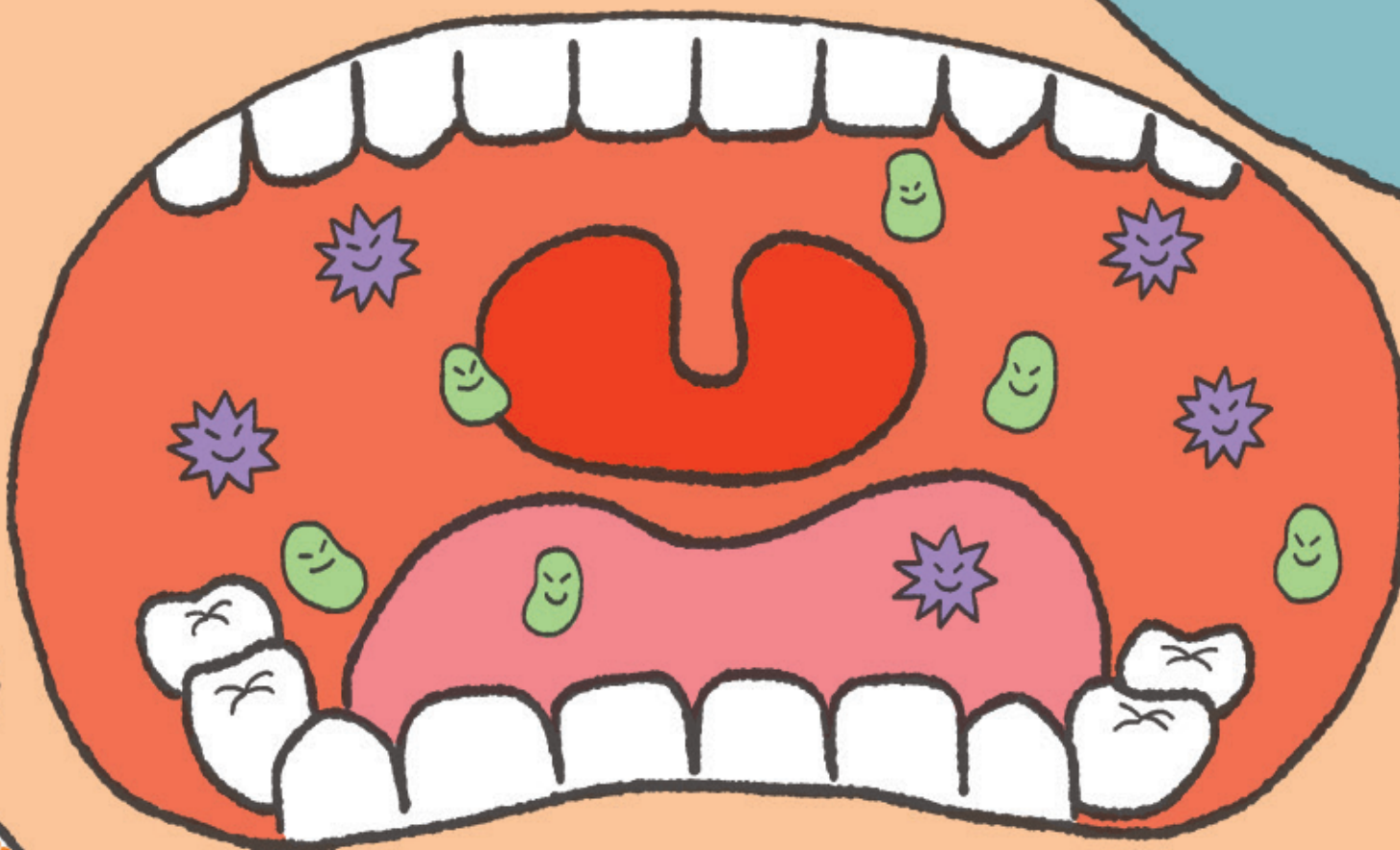


あさは、ねぼうして、あわてていると、
ササッと、やっておしまい。
ていねいには、できていません。



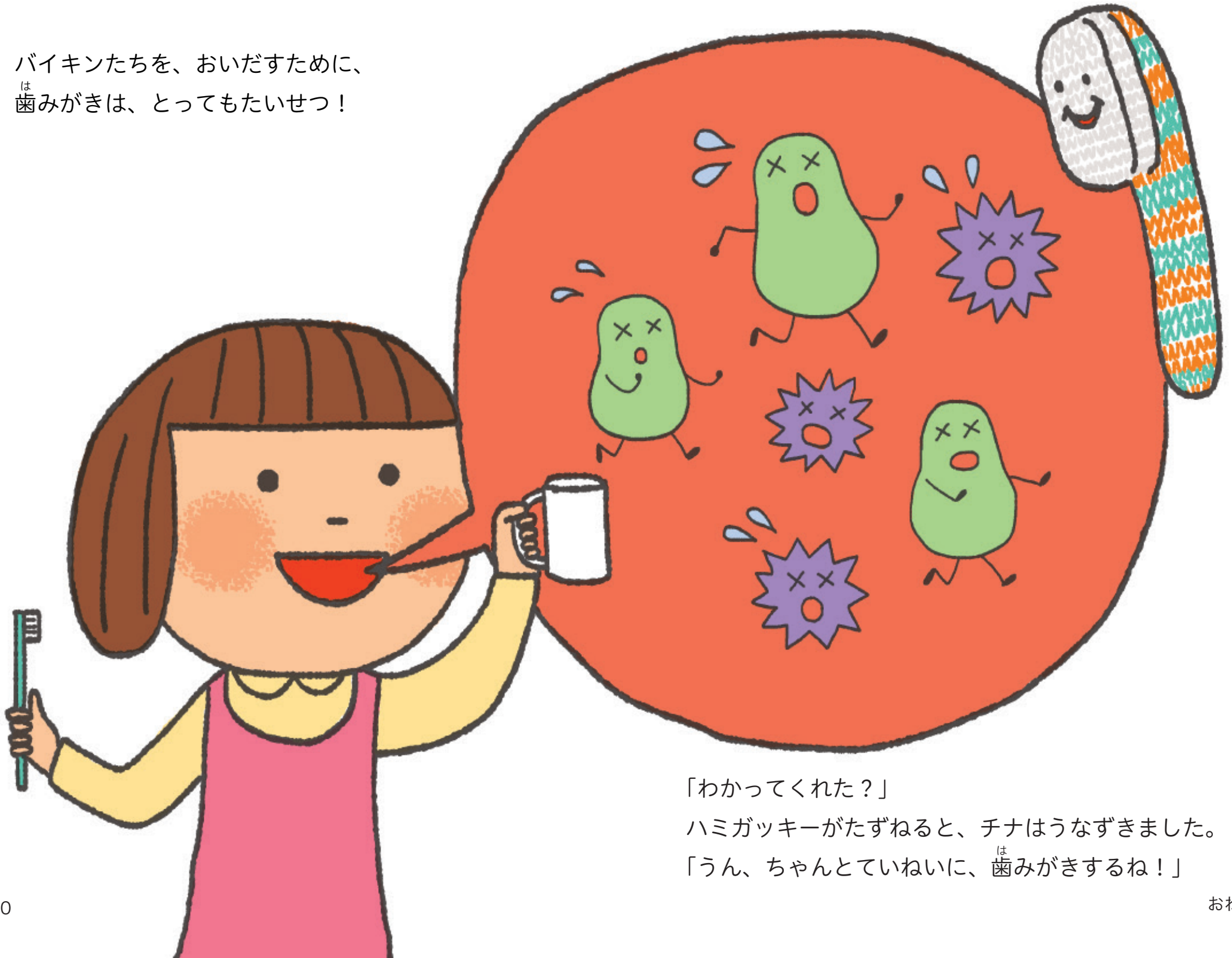
ハミガッキーは、かなしいかおをしています。
チナは、つぶやきました。
「^ぼむし歯は、ないもん」

「むし^ば歯だけじゃないんだからね！」
ハミガッキーが、こえを^{おお}大きくします。
くちのなかには、むし^ば歯きんのほかにも
バイキンが、いっぱい。



バイキンのせいで、かぜにかかったり、
ねつがでることもあるのです。

バイキンたちを、おいだすために、
は
歯みがきは、とってもたいせつ！



「わかってくれた？」

ハミガッキーがたずねると、チナはうなずきました。

「うん、ちゃんとていねいに、^は歯みがきするね！」



チナちゃん、シーラントを
は
歯にぬると、むし^ほ歯を
ふせぐことができるよ。
でも、けんこうに
すごせるように、
は
歯みがきもちゃんとしてよね。

はい

